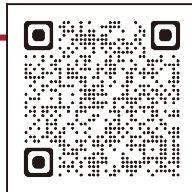




稲塚利夫 議員



0~14歳人口急減!! 対策は

結婚、出産、子育て環境の充実を図り、若い世代の定着が図られるよう魅力あるまちづくりを進めていく(町長)

問

平成25年から、当町の年少人口(0~14歳)は減少に転じており、0~4歳児は190名が激減している。活気ある川越町の継続には子育て世代の流入促進と定着環境整備、流出抑制等の対策が必要だが、当町が他自治体に先行して取り組む施策や予定している施策は。

答 町長

他の自治体より子育て支援サービスを厚く充実させてきており、国の「異次元の少子化対策」の動向に注視するとともに、県と連携して取り組んでいく。

再

年少人口の減少を防ぐには子育て支援の充実のほか、子育て世代の世帯数を増やす施策が重要だがどのように取り組むのか。

答

企画情報課長
若い世代は転入、転出が多いため、子ども医療費の対象年齢拡大や子どもたちの心を育てる教育に力を入れ転入と定住を図っている。

問

町民プールは令和2年度から休止が続いており、今後策定の公共施設等総合管理計画で他施設への転用を含めた運営方法を検討すると伺っている。住民に寄り添った行政サービスの考えのもと、町民プールと同額で町民が川越火力発電所温水プールを利用できるようにできないか。

答 教育長

事前に割引券を発行する方法が考えられるが、発行時やプール利用時の本人確認等で利用者に手間を取らせることになる。当該温水プールは2時間までの利用料金は町民プールより割高だが、営業時間内であれば時間制限なしで利用が可能のため2時間以上利用の場合は町民プール利用料を下回

酷暑下も続く町民プール休止

代替的施設利用に伴う利用料の差額を町が負担することは難しく、慎重に検討していく必要がある(教育長)



休止の続く町民プール

線状降水帯・豪雨対策は

新たに雨水管理総合計画を策定し、雨水施設の整備をしっかりと計画していく(町長)

ることから利用料差額の町負担は慎重に検討する必要がある。

答 町長

現在の計画は地域によって若干異なるが、時間雨量61~70ミリメートル程の降雨に対応している。策定予定の計画では近年の降雨データも反映した計画降雨量をこれから設定し、雨水施設の整備もしっかりと計画していく。

問

気候変動や線状降水帯により全国で豪雨災害が多発しているが、当町の排水路はどれだけの時間降雨量に対応できるのか。また、令和6~7年度で策定予定の雨水管理総合計画で対応可能な降雨量をどう考えているのか。



豪雨から町を守る「朝明ポンプ場」と「川越排水機場」

令和4年度決算

9月定例会

議会活動

モニター意見

子ども議会

一般質問